

イタリヤ語で「ボール」を意味するポッチャは、脳原性疾患による四肢麻痺など、比

## ポッチャ



較的重い障害のある人のために考案されたパラリンピック特有の球技です。最初にジャックボールと呼ばれる白いボールを投げ、続いて赤と青の各6個のボールを投げたり、転がしたりして、目標となるジャックボールにいかにか多くのボールを近づけるかを競います。ルールの類似性から、「地上のカーリング」とも呼ばれますが、的となるジャックボールの位置が毎回変わり、途中で弾いて動かす



上、左下・香取地区子ども交歓大会、右下・ランプを付けて投げる様子、



こともできる点が特徴です。男女の区別はなく、障害の内容や程度などにより4クラスに分けられ、個人戦、ペア戦、団体戦の3種類があります。クラスによってルールがアレンジされ、ボールを手で投げることが難しい選手は足で蹴ったり、競技アシスタントのサポートを受けたり、滑り台に似た勾配具（ランプ）を使って転がしたりすることなどが認められています。

### ポッチャの体験

10月20日(日)に町子どもスポーツ大会、12月14日(土)に香取地区子ども交歓大会が町民体育館で行われ、ポッチャの熱い攻防戦が繰り広げられました。

香取地区子ども交歓大会では、各地区の子ども会の小学生が低学年と高学年に分かれて、チーム戦を行いました。各チームはそれぞれに作戦を立て、緊張感が漂う中、狙いを定めて集中し、ボールを投げていました。学年に関係なく勝負でき、みんなで楽しく交流しました。



石出小6年  
ち はる  
保立 千陽さん(石出)

ポッチャは、ジャックボールをどこに投げるかが大事。私たちのチームはなるべく真ん中の投げやすい場所に置くようにしています。相手が投げるときはドキドキしますが、面白いです。

先攻がジャックボールを投げ、続けて自分のボールを投げます。後攻側が最初の投球を行い、以降はジャックボールから遠い位置にボールがある側の選手が次の投球を行います。赤、青とも6球ずつ投げた時点で、ジャックボールに最も近いボールを投げた側のみ、相手の最も近いボールよりも内側にあるボールの個数分の得点が入ります。この一連の流れを1エンドとし、個人戦、ペア戦は4エンド、チーム戦は6エンド行います。

### ポッチャ 試合の流れと主なルール

クラス	対象	投球	アシスタント
BC1	脳原性疾患	可(足蹴り可)	○
BC2	脳原性疾患	可	×
BC3	脳原性疾患／非脳原性疾患	不可で勾配具を使用	○
BC4	非脳原性疾患	可	△(足蹴りの選手のみ)

## ロンドンのメニアギャラリーで展示

# 書道家の岩井弘晃さんが 審査員特別賞を受賞

イギリスのロンドンにあるメニアギャラリーで、Discover the one Japanese art展が開催され、町の書道家・岩井弘晃（ひろあき 颯雪）さんの作品が展示されました。そこで審査員特別賞を受賞された岩井さんにお話を伺いました。

作品は、書をスキャンしデータとしてパソコンに取り込み、色を付け加工したものです。新渡戸稲造の『武士道』からインスピレーションを得て、あえて切り抜きにし、色はシンプルにしました。

展覧会では入口正面に飾っていただき、オープニングパーティーでは作家代表あいさつもさせていただきました。レセプションパーティーは大英博物館貸し切りで行われ、非常に驚きました。

ロンドンでは、芸術に対する寛かさや関心の高さに驚きました。ダヴィンチやピカソの作品が展示されたギャラリーを無料で、柵もなく近くで見ることができ



▲ロンドンのメニアギャラリーにて

き、写真を撮ることもできました。これからは社会でもアートに対する知識や教養が必要とされてきます。この経験を生かし、自身の教室や活動でも、老若男女問わずアートの楽しさを伝えていきたいと思えます。

2020年にはイギリス王室のギャラリーに作品が展示されますが、今後はもっと町の活性化に貢献していきたいです。いろんな活動を通して、やはり地元で書くことを広めていきたいと感じました。1月5日には、公民館で書道パフォーマンスやワークショップを行います。作品も展示しますので、ぜひお越しください。

### 書道パフォーマンス

日時 1月5日(日) 10:00 ~  
場所 公民館大ホール  
内容 パフォーマンス、福引き、体験「新年の抱負を書こう」など



「雲と光 ふるさと笹川」 ようやく夏らしく  
2019年7月26日夕方 菰敷

## 千葉県身体障害者作品展

# 多田敬次郎さんが 千葉県知事賞を受賞

千葉県身体障害者作品展で千葉県知事賞の最優秀に輝いた多田敬次郎さん（仲内）が、11月21日(木)に千葉市で行われた千葉県身体障害者福祉大会において、表彰されました。

書や絵画、手工芸、写真の全170作品の中で見事1位を獲得した多田さんに、写真のこだわりや魅力を伺いました。

や雲を撮影しました。それがやみつきになりましたが、雲をメインにするのなら名所より地元で撮れないかと笹川で撮るようになりました。昔からいろんな雲を見ていて不思議に感じていた記憶があります。

好きな風景は、菰敷橋から撮る黒部川の夕焼け。仕事もあるため、以前のように各地での撮影は難しいですが、今は地元でこだわり、空の雲が変わっていく様子を楽しみながら撮影しています。

### 受賞作品の特別展示

期間 1月15日(木)まで  
場所 役場町民ホール  
ご自由にご覧ください

受賞の連絡があったときはびっくりしました。また、知事賞という作品全体の中で1番という結果に、さらに驚きましたが、とてもうれしかったです。

実は以前から、町身体障害者福祉会の皆さんに「県の作品展に応募しないか」とお誘いいただいていたものの、お断りしていました。しかし何度も声をかけてくださり、2度目の出展で今回の受賞となりました。福祉会の皆さんには本当に感謝しています。

写真は父の影響ではじめ、一人で遠出して各地の見たことのない夕日

